

軽井沢スポーツ・ツーリズムにおける今後のあり方

A study of an ideal way in the future of sports tourism on Karuizawa

1k03b052-5 金子 真里

指導教員 主査 間野義之 先生 副査 木村和彦 先生

【緒言】

スポーツ・ツーリズムはヨーロッパや北米などの国々では市場価値としてある一定の域に達しているが、わが国においては、これからの成長が期待されている市場の一つであり、スポーツの分野だけでなく、地域振興などの視点からも注目されている。

また、メジャーリーグなどのスポーツ観戦ツアーやホノルルマラソンなどイベント参加ツアー、マリンスポーツやスキー、トレッキングツアーなどがそうであり、様々な形態による旅行がある中で、“スポーツを目的とした旅行”は意外にも我々のレジャー活動に浸透していると考えられる。

長野県軽井沢町では、スロースポーツライフツアーと題したスポーツ・ツーリズム推進事業が2005年に立ち上がった。軽井沢町は国内旅行先としても人気がある上に、テニスのメッカとしても知られており、また、平成10年の長野オリンピックではカーリング会場としても使われた場所である。この様に、スポーツ・ツーリズムにおけるプロダクトを十分に持った軽井沢町は、スポーツ・ツーリズムの研究に適していると考ええる。

そこで本研究では軽井沢町を事例に挙げ、軽井沢町がスポーツ・ツーリズムの目的地として活性化していくために、観光地マーケティングを行うことで、今後の軽井沢スポーツ・ツーリズムのあり方について検証する。

【目的】

本研究は、軽井沢における観光の実態とスポーツに関して調査し、特に別荘滞在者に焦点を絞って今後の軽井沢スポーツ・ツーリズム発展の鍵となるスポーツはどのようなものであるか、明らかにすることを目的とする。

【方法】

軽井沢スポーツ・ツーリズム調査(質問紙調査、2

005年8月13・14日に軽井沢観光客・別荘滞在者を対象に行われ、回収数980部)のデータを元に、主にSPSS 12.0J for Windowsを使用して分析を行った。

【結果及び考察】

・軽井沢別荘滞在者は夫婦や親子といった家族で軽井沢を訪れている人がほとんどであり、家族で楽しめるスポーツを提供することの重要性が分かった。

・別荘滞在者は1回の旅行での宿泊日数は平均9.18日であったのに対し、非別荘滞在者は3.21日であり、別荘滞在者は平均して25.34日もの日数を軽井沢で過ごしているという結果が出た。よって軽井沢スポーツ・ツーリズムにおいて、別荘滞在者の存在は安定的なターゲットとなりうる。

・軽井沢での過ごし方を聞いた所、軽井沢には色々なレジャーがあるにも関わらず、「何もせずにゆっくり過ごす」と答えた人が半分以上おり、別荘滞在者の多くは軽井沢ではただただゆっくり過ごしたいと考えていることが分かった。

・軽井沢での現在のスポーツに対する満足度を聞いたところ、現在のスポーツに満足している人は全体で約4割弱であり、それと同じ位の人が「もっと行いたい」や「場所や機会がない」と不満を感じていることが分かり、この不満を感じている人たちの欲求を満たす事が大切であることが分かった。

・軽井沢でやりたいスポーツを聞いたところ、やはりゴルフやテニスといった元々軽井沢で人気のあるスポーツが最も人気であった。しかしパーセンテージを見ると他の散歩やウォーキング、サイクリングやハイキング、登山、釣り、水泳、ヨガなどのスポーツも挙がっており、今後はそれらのスポーツに対するニーズがあることも分かった。